自治連たま

■発行　多摩市自治連合会
■編集　自治連広報委員
（事務局）多摩市役所
協創推進室内
〒206－8666 多摩市関戸六丁目12番地１
TEL 042（338）6892　FAX 042（337）7660
https://www.city.tama.lg.jp/kenkofukushi/katsudo/jichikai/index.html
令和７年３月20日

会長挨拶

多摩市自治連合会
会長 田村 清太郎

皆様お元気でしょうか？

本年度も、多摩市自治連合会の事業に対して、ご協力、ご支援をいただき、誠にありがとうございます。2025年のスタートは昨年と違い、今のところ平穏な日々を過ごすことが出来ておりますが、今後も安全安心で暮らせる日常が続くよう願うと共に地域活動の推進に一層のご理解とご協力をお願いします。

来年度事業計画については、概ね例年通りに行う方向ですが、一部実施が難しい事業も出てきそうです。詳細につきましては、令和7年度定期総会において提案させていただき、ご審議賜りたく存じます。

さて、自治連活動も残すところ、６月７日（土）の定期総会のみとなりました。お忙しいとは存じますが、ぜひご出席賜りますようお願い申し上げます。

また、自治連役員が定数に満たない状況でございます。役員として一緒に自治連活動を担っていただける方を募っています。振るってご応募のほどをお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

学習会　テーマ「多摩市政について・議会の運営について」

令和７年２月８日（土）に多摩市永山公民館集会室にて、多摩市自治連合会主催の学習会を阿部市長と三階市議会議長を講師に迎えて開催しました。

阿部市長の講演では、「とかいなか」のタイトルで昨年12月に大手町駅に巨大なポスターを掲示して多摩市のＰＲを仕掛けた話題からスタートしました。次に首都圏のＳＵＵＭＯ住民実感調査で多摩市が公園が充実している街で１位、魅力的な図書館がある街で２位を獲得するなど、首都圏で多摩市が評価されてきている報告がされました。（＊順位は首都圏の人口10万人～20万人の都市対象）

本題に入り、多摩市の環境では、ペットボトルがきれいに分別されており、リサイクルが都内より進んでいて、全てペットボトルを再生することにより、石油由来の資源からペットボトルを作るのに比べ、ＣＯ２を60％削減できて環境に寄与しているそうです。

次に、健幸まちづくりについて、多摩市では高齢化が進んでいるが要介護者の比率は低いという現状実態の説明があり、介護予防教室の開催や街に出掛けることにより貯まる健幸ポイント事業などの実施もあって、要介護者が少ない現状に繋がっていると実感しました。

市内施設や行事の話では、中央図書館の来館者が、開館から約１年２カ月で100万人を突破、多摩センターでナイトタイムのパブリックビューイングやプロジェクションマッピングの開催、地元の自治会・商店会等で進めてきた「聖蹟桜ケ丘かわまちづくり」が国土交通省から表彰されたこと等、多摩市のたくさんの魅力についてお話いただきました。

10分間の休憩を挟み、続いて三階市議会議長からは、分かり易く議会の仕組みについてお話がありました。普段見ることのできない議長席からの眺めや、議員の仕事について議会閉会中でも常任委員会での調査活動や市民団体との懇談や意見交換など、様々な活動をしていることをご説明いただきました。また、議長の報酬についての興味深い話もありました。最後に、議員には請願や陳情だけでなく、身近な問題や要望を気兼ねなく相談して貰いたいとの市民への要望があり、市議会が身近に感じられる講演内容でした。

阿部 裕行
多摩市長

三階 道雄
多摩市議会議長

新年情報交換会

令和７年１月18日（土）に、昨年に引き続いて多摩市鶴牧のLINK FOREST １階ホールＡで、新年情報交換会を開催しました。来賓・役員を含め55名の参加をいただきました。

正午に開会、まず、多摩市自治連　田村会長の挨拶に続いて、顧問の阿部市長・三階市議会議長・千葉教育長からご祝辞をいただきました。

市長の祝辞の中で自動運転バスの実証実験開始と羽田空港までの空飛ぶタクシー構想の話と、千葉教育長の祝辞で多摩市の中学生の英語力の水準が東京都の区市町村はもとより全国の都道府県比較でもトップクラスの水準にあるという話が印象に残っています。

ご参加いただいた来賓の皆様のご紹介のあと、多摩・稲城防犯協会の奈良部会長に来賓を代表してご挨拶をいただきました。その後飲み物の用意されたテーブルに移動し、多摩商工会議所の伊野会頭に乾杯の音頭をとっていただき、なごやかに歓談・会食が始まりました。

しばらく歓談が続いた中、13時を過ぎたころに、恒例の「ビンゴ」が始まりました。楽しい催しの雰囲気が残る中、下野副会長の締めの挨拶でなごやかに会を閉じました。

向かう一年の様々な取り組みに向けて決意を新たに散会しました。

阿部市長

三階市議会議長

千葉教育長

田村会長あいさつ

スポレク2024

今年度は昨年度より参加団体、チーム、人数とも増え、開催時間は昨年度と同様に昼食を挟んでの１日プログラムで行われました。競技種目は皆様方のアンケートで要望の多かったボッチャを加えて６種目に増やしました。競技時間は参加者全員がゆっくり競技を楽しめる様に各々30分を取りましたが、いくつかの種目では時間が早く終わり待ち時間が増え、進行にばらつきが出てしまいました。昼食後は恒例のスマイルキッズバトンクラブの皆さんの演技を観て楽しんでいただきました。年々その技量が上達し、子どもたちの日頃の練習の成果が実を結んでいるようでした。

開催日時	令和６年11月24日（日）９時40分～14時45分
会　　場	多摩市立総合体育館
参 加 者	10団体 17チーム 147名 スマイルキッズバトンクラブ 35名　合計182名
競技種目	６種目（輪投げ、ストラックアウト、ボッチャ、ディスクゴルフ、玉入れ、ダーツ）
表　　彰	総合表彰（各種目の順位点の合計点数） ・優　勝：関戸自治会（80点） ・準優勝：一ノ宮自治会①（71点） ・３　位：一ノ宮自治会②（62点） ・特別賞：都営住宅聖ヶ丘1丁目アパート自治会①(18点) ・ブービー賞：愛宕２丁目住宅管理組合②（22点） 種目賞（各種目の１位の競技点数） ・輪投げ：関戸自治会（48点） ・ダーツ：馬引沢自治会①（213点） ・ストラックアウト：東寺方自治会②（14点） ・玉入れ：一ノ宮自治会①（38点） ・ディスクゴルフ：関戸自治会（21点）

今回も競技終了後、参加者にアンケート回答して頂きました（回答124名/147名）。その中で、スポレク全体では94%の方が「とても良い」と「良い」を、また今回の６種目の継続希望との回答が９割以上でした。頂いたご意見は今後の参考にさせて頂き、さらに多くの団体に参加いただき楽しめるスポレクにして行きたいと思います。

最後にスポレクの開催に当り、スポーツ推進委員の皆様及びスタッフの皆様に多大なるご支援・ご協力をいただきありがとうございました。

視察研修会

開催日	令和６年10月11日（金）
視察先	立川防災館
参加者	会員18団体25名、役員９名　計34名

立川防災館には、平成23年度にも視察研修先として伺っていますが、ちょうど東日本大震災が発生した年でもありました。あれからすでに10年以上経ており、この間、熊本地震や台風・豪雨災害、昨年の能登半島地震など、自然災害が数多く発生しています。立川防災館では、地震や風水害のほか、火災への対応なども体験できることから、あらためて会員の皆さんと防災意識を再確認するために視察先として選びました。

当日は、午後からの半日行程ではありましたが、参加者を２つのグループに分け、４つの体験を行いました。

「**防災ミニシアター**」では関東大震災時の状況を実際の被災者目線による映像で伺い知ることができ、「**地震体験コーナー**」では、起震台にごく普通の家の中を再現し、地震発生時にテーブルの下への避難、収まった後の火の元、ブレーカーを切る作業を確認しました。「**救出救助体験コーナー**」では、家屋が地震により倒壊したほぼ実物大のセットを使い、閉じ込められた被災者をどのように救助するか？を代表者が屋根に上って要救助者を確認する体験をしました。

また、最近導入された「**VR防災体験コーナー**」では、参加者がVRゴーグルを目にセットすることで仮想現実の映像が流れ、地震では座席が大きく揺れたり、風水害では霧吹き状の水が顔に飛んできたり、と臨場感のある体験ができました。

参加された会員からは、リアルな体験ができ、とても有意義で勉強になったとの意見や、自治会内に周知してみたい等、概ね肯定的な評価をいただきました。

合同部会

テーマ「災害発生時に地区自主防災組織が果たすべき役割について」

和６年12月７日（土）午後１時半～多摩市立関戸公民館大会議室にて、合同部会を開催しました。参加者は、自治会30名、管理組合９名の計39名でした。今回の合同部会は、令和６年度の自治会・管理組合サロンにおいて、情報交換された地域活動の課題の中で「防災」について先進的に取り組まれている団体や行政の取り組みについて紹介し、今後の各自治会・管理組合での活動に資することを目的としています。

先ず、地域活動に先進的に取り組まれている自主防災組織と地区防災連絡協議会の２つの団体から事例発表していただきました。

グリーンメゾン貝取－２
住宅管理組合
防災対策委員会
防災専門委員会
委員長　河村俊明　氏

グリーンメゾン貝取－2住宅管理組合の事例発表では、防災だよりで「今年元旦の能登半島地震を首都直下地震の備えに活かそう」「おうち防災訓練、家族全員で電気、ガス、水道を使わず24時間自宅で避難生活を実体験してみよう」と呼びかけたほか、2024年秋の防災交流キャンペーンの実施と「ＧＭ貝取-2住民防災台帳」登録シート作成を実施したことを丁寧に説明していただきました。

瓜生小地区
防災連絡協議会
代表　安藤弘喜　氏

次に、瓜生小地区防災連絡協議会の事例発表では、①地域と連携した災害時の取り組み、②「誰もが安心して暮らせる地域」の実現のために福祉のネットワーク永山の発足、③瓜生小地区防災連絡協議会の発足、④避難所基本マニュアルの策定、⑤行動マニュアル策定（要旨）⑥活動（１）防災講座、防災セミナーの実施、⑦活動（２）瓜生小学校での宿泊訓練と避難所運営訓練の実施、⑧災害図上訓練（ＬＯＤＥ）、避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）⑨活動から得られたものとして地域コミュニケーションの深まり、地域で顔の見える関係の構築、避難所の役割明確化、⑩今後の取り組み、地震災害等の訓練の深化、地域住民の安全安心のための連携強化等について、詳細に説明していただきました。

多摩市防災安全課
防災担当主査
西野泰生　氏

最後に、多摩市防災安全課からは「総合防災訓練の現状と災害時における自主防災組織の役割」について説明がありました。①地震による被害想定（多摩市内）②避難所の役割と総合防災訓練、災害時における避難の考え方（在宅避難、避難所等への避難）、総合防災訓練（避難所開設訓練、安否確認訓練）③災害時における自助、共助、公助（自助だけでは困難、公助にも限界、共助がカギになる）④共助力を向上するために地域でトライ（普段からの近所付き合い、災害時に助け合い、地域で出来ること：多様な参加者の参加等）について大変分かり易く説明していただきました。

合同部会のアンケート結果では、防災事例発表について９割の方が好評価で、開催時間も８割の方が適切とのことでした。

「地域の防犯パトロールに関するアンケート調査」結果報告

【アンケート回収結果】

2024年は首都圏の近郊都市で闇バイトによる強盗事件発生のニュースが多く報道され、多摩市民にとっても他所事ではないという不安を抱かせられました。

そこで、昨年12月に自治連加盟114団体を対象に地域の防犯パトロールに関するアンケート調査を実施しました。

今回アンケート調査に回答提出いただいた団体は計84団体、アンケート回収率は73.7%に上り、非常に関心が高いテーマであることが伺えます。

＜アンケート調査回答　回収結果＞

	自治会	管理組合	計
対象数	61	53	114
回収数	48	36	84
回収率	78.7%	67.9%	73.7%

【防犯パトロールの実施状況】

アンケート結果によると、現状、防犯パトロールを実施している団体は33団体、39.3％と全体の４割弱にとどまっています。内訳を見ると、自治会は実施している団体が６割近いのに対し管理組合は２割にも満たず、自治会と管理組合でパトロールの実施有無に大きな違いがあります。

＜地域の防犯パトロールの実施有無について＞

パトロールの実施の有無	回答数			構成比
	自治会	管理組合	計	
実施している	28	5	33	39.3%
実施していない	20	31	51	60.7%
回答計	48	36	84	100.0%

また、実施していない団体の回答の中で、管理組合の場合、その理由として、住民から必要との声があまりないという回答が多かったのに対し、自治会の場合、出来れば防犯パトロールを実施したいが人が集まらない等の理由で実施していないとの回答が多く見受けられ、この点も違いがあります。

【防犯パトロールの実施主体】

パトロールの実施主体については、地域のボランティアと自治会役員・管理組合役員が行っているケースが各々約４割を占めていますが、多摩稲城防犯協会の支部員と一緒に行っているケースも多くあります。

＜防犯パトロールの実施主体について＞

運営主体	回答数			割合
	自治会	管理組合	計	
自治会、管理組合の役員	11	4	15	39.5%
地域ボランティア	14	0	14	36.8%
防犯協会支部員，他	8	1	9	23.7%
回答計	33	5	38	100.0%

【防犯パトロールの内容】

防犯パトロールの内容としては、夜の防犯見回り以外に、見守りウォーキングを兼ねたパトロール、わんちゃんのお散歩のついでの見守りパトロール等、各々の地域の実情にあわせて工夫し、実施されています。

＊多摩稲城防犯協会の防犯パトロール

多摩稲城防犯協会は多摩中央警察署と一体となって民間の立場から「犯罪の無い明るい街づくり」を推進するボランティア団体で、多摩市に27支部があります。歳末防犯パトロール以外にも各支部で定期にパトロールを実施しています。

～各地域の防犯パトロール　あれこれ　～　　いろんな形で行っています。

今回アンケート調査において、防犯パトロールを実施しているとの回答のあった各団体の中から次の４団体に各々の地域での防犯パトロールの実施状況を伺いましたので、ご紹介します。

あたご第４ブロック自治会、連光寺向ノ岡自治会、鶴牧５丁目南町会、諏訪公団住宅自治会

◇あたご第４ブロック自治会

自治会役員会として組織的に防犯パトロール実施

あたご第４ブロック自治会では、自治会の年度事業計画として、年４回（７、８月、12月、３月）、各６日間夜回りパトロール実施を定めている他、不定期にも実施しています。４回の防犯夜間パトロールの内２回は自治会役員が、後の２回は防災防犯部員が自治会の活動方針に従い、毎回約15名強が参加しています。活動予算としては年間20万円の予算を計上し、青パト（警視庁認定青色回転灯装着車両）によるパトロールを不定期に行っています。（青パトは松本会長の私用車を利用）あたご第４ブロック自治会は、世帯数394世帯、自治会加入率100％で、組織作りと運営をきめ細かに行っている様子が伺えました。

◇連光寺向ノ岡自治会

わんちゃんと飼い主によるわんわんパトロール実施

約400世帯が暮らす連光寺向ノ岡自治会では、防犯防災部によるパトロールと年末の火の用心パトロールを実施していましたが、2023年春から「顔見知りを増やす」という自治会のコンセプトに沿って、わんちゃんと飼い主によるわんわんパトロールをスタートしています。

犬の散歩仲間が集まって緩やかな交流を促進する狙いもあり、２か月に１回、偶数月の最終土曜日夕方に向ノ岡集会所に集まり、パトロールをしています。公式LINEを利用して、わんちゃんを登録、公開してわんわん仲間を増やしたり、不審者情報を知らせることも簡単に出来るようにしています。自治会の防犯防災部の活動でありながらLINEを活用して運営上の負担を軽減し、参加者は散歩を楽しみ、わんちゃん仲間を増やすことが出来、パトロールが防犯にもつながっている点が特徴です。参加者登録数は26人に増え、毎回11人～20人が参加しています。登録すると、わんわんパトロールキーホルダー（＊写真参照）がもらえます。

◇鶴牧５丁目南町会

駐在所のおまわりさんと一緒にパトロール。防災講習会も実施

約150世帯が暮らす鶴牧５丁目南町会では、2024年11月から町会役員有志と防災サポーター員10名と落合６丁目駐在所のおまわりさんも同行し、毎月第１と第３木曜日16:30～町会内を巡回パトロールしています。2025年２月まで継続予定。

また、町会の防犯力を高める取り組みにも力を注いでいます。2025年１月には東京都の助成金を活用し鶴牧５丁目南町会主催の防災講習会をトムハウスで開催。講習会には南町会住民以外に東町、西町、新西町会と防犯協会関係からの参加もあり、計51名が参加。大好評でした。

鶴牧５丁目南町会では、2024年度のチャレンジとして５町会（南町、東町、西町、新西町、南野３丁目）会長副会長懇親会を５年ぶりに再開。従来、５町会で行っていた防災訓練も再開。防犯対応案を各町会から出し、５町会としてまとめて行政に要望を出すように進めて行こうとしています。

◇諏訪公団住宅自治会

馬引沢・諏訪地域の見守りウォーキングを実施

馬引沢・諏訪地域では、多摩市社会福祉協議会の馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会参加者有志で「見守りウォーキング」を毎月第３木曜日に行っています。参加者は全員ボランティアで毎回６～10名が参加。防犯パトロールのベストと赤色灯を持ち、見守りウォーキングをしています。３月～10月は18:00～、11月～２月は17:30～、各々約１時間、多摩市や社協、学校から寄せられる不審者情報を参考にして、毎回、コースをアレンジしています。

平成28年12月に馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会で地域の防犯パトロールの情報収集を行い、パトロールが少ない地域を把握し、防犯パトロールを兼ねたウォーキングとして始めています。参加者有志は諏訪公団住宅自治会会員に限らず、半数近くは近隣のブリリアマンション住民も参加し、自治会の区域を越えての防犯パトロールとなっています。見守りウォーキングを開催の都度、参加者名簿を作成し、社協の支援でボランティア保険を掛けており、万が一の事故対応の備えもしています。

＊社会福祉協議会のボランティア保険とは・・・・・

ボランティア保険は、東京都社会福祉協議会が保険契約者となり①ボランティア活動中の事故によりボランティア本人がケガをした場合、②ボランティアが活動中に他人に損害を与え賠償責任が発生した場合、を補償する保険です。福祉活動やボランティア活動等を目的として、または市民活動の一環として非営利の団体が主催する行事参加中の上記①，②の補償をするもので、当日参加対応型の行事保険です。

多摩市社会福祉協議会が掛けている行事保険の令和６年度実績は、45件（1,323名分）ありました。当日参加者の名簿を作成し提出することが要件ですが、比較的利用し易く、安心して活動できる利点があります。

オンライン化実証実験の進捗状況について

昨年６月にオンライン化実証実験説明会を開催し、公募を行って３団体の応募があり、審査会審査の結果、桜ヶ丘三丁目自治会みどり会と永山６丁目自治会を実証実験団体として決定しました。決定後、デジタルアプリの導入・操作説明会を経て、昨年10月から運用を開始しました。各々の自治会の取り組み状況をご紹介いたします。

桜ヶ丘三丁目自治会みどり会

会員世帯数316世帯（約６割加入）。自治会組織は、みどり会役員は任期１年で会長他８名、防災対策委員会は任期２年～、本部長他10名、防災対策員20名で構成。自治会が抱えている課題は、役員の担い手不足、会員数の減少傾向、役員数に比較し常時の運営が多く負担大等。

オンライン化実証実験の推進体制は、みどり会役員と防災対策員から８名を選出し、オンライン化執行部を組織。オンライン化に必要な項目を洗い出し、執行部内で役割分担。執行部会は毎月１回開催し、進捗確認と問題、課題を共有し、Ｑ＆Ａ、問題課題一覧を作成。実験終了後の本運用を目指し、規約化を進めている。

１月現在のアプリ登録率は41％で８月末目標は70％。現在、会員向けリーフレットを作成し全戸配布予定。ユミコムで使用している機能は、カレンダー機能、お知らせ連絡帳、デジタル回覧板、みんなの投稿BOX、トーク等で、各々○×△評価済。今後、３月のみどり会防災訓練にて『災害モード』機能を実験予定。

永山６丁目自治会

会員世帯数199世帯（約６割加入）。自治会組織は、Ｒ６年度に役員任期を１年から２年に、７班編成を５班に改定。会長他10名、自主防災会は自治会組織の一つとして任期３年で本部長他15名で構成。自治会が抱えている課題は、会員加入率の低下（戸建て会員加入率は50％を切る水準）、高齢化、役員のなり手不足、新規会員加入が少ない等。

オンライン化実証実験の推進体制は、2024年１月に発足した自治会改革プロジェクト（８名）の実行項目の一つとして推進。会員世帯全戸に実証実験のチラシを配布し、自治会会報でも案内。９月～11月末でアプリ登録は戸建て世帯の32％にとどまり、12月に戸別訪問を実施、今年１月末までに戸建て会員世帯ベースで50％を超えた。２月以降、マンション会員世帯の登録を進め、８月末目標は70％。今後、具体的な実証実験項目と担当を決め、ユミコムの機能を使用していく予定。２月～デジタル回覧板運用、３月～役員会議事録掲載の運用、４月～クーポン活用、５月防犯アンケート、６月安否確認訓練時に災害モード活用を予定。

令和７年度 定期総会のご案内

定期総会	懇親会
開催日：令和７年６月７日（土）	開催日：令和７年６月７日（土）
会　場：パルテノン多摩会議室１	会　場：パルテノン多摩会議室３・４
時　間：13時～14時45分	時　間：15時～16時

＊ 詳細については、団体代表者様宛に後日お知らせいたします。

多摩市自治連合会に加入しませんか？

多摩市自治連合会は、市に設立の届出をされている自治会・管理組合のうち、114団体が加入しています。

令和６年度は、新たな事業として、公募した２つの自治会においてデジタル回覧板や行事予定のカレンダー機能等を備えたアプリを導入し、日々の自治会活動にどのように活かせるか実証実験を開始しました。また今年度の合同部会では、災害発生時における地区自主防災組織の果たすべき役割として、先進的な取り組みをされている２団体のほか、市防災安全課からも啓発的な発表をいただき、参加者からも大変有意義であった旨のご意見をいただきました。今後も各団体の活動に少しでも役立てるような取り組みを検討して参ります。

是非、多摩市自治連合会へのご加入をご検討いただき、地域活動の促進や地域課題への取り組みなど様々な問題に、共に取り組んで参りましょう！

編集後記

今回の特集記事は、地域の防犯パトロール実施状況に関するアンケート調査結果を基に、４つの団体の活動内容を紹介しました。各々の団体が地域の防犯力を高めるため工夫してパトロールを行い、コミュニケーションを深め、地域のつながりに結び付けています。アンケート調査結果では、自治連加盟団体の約６割が防犯パトロールを実施していないとの回答でした。防犯パトロールの実施に限らず、地域の防犯力を高める取り組みについては、都や市の助成金制度、多摩稲城防犯協会や多摩市社会福祉協議会の各地域支援ネットワーク等いろいろな利用できる制度や仕組みがあり、先ず地域で出来ることから１歩踏み出すことが大事と改めて気付かされました。

（広報委員　横山・菊川）